

- ① 「舞姫」を書いているトヨはエリスとの出会いを後悔している。
- ② エリスはトヨと交際するためにトヨの下宿にやってきた。
- ③ トヨは下宿で一日中音楽を聞いていた。
- ④ 「一輪の名花を咲かせたり」とは、エリスが美しい花を持って来てくれたことである。
- ⑤ トヨはエリスといきなり大人の関係になった。
- ⑥ 留学生はトヨが舞姫をナンパしていると官長にチクくった。
- ⑦ トヨを憎んでいた官長は慎重に調査した。
- ⑧ トヨはクビになり、直ぐに帰国すれば旅費は出すが、ドイツに残留するなら一切の援助を断ち切ると言い渡された。
- ⑨ トヨは、返事を三日間待ってもらった。
- ⑩ トヨは、母の自筆の手紙と、母の死を知らせる親戚の手紙を、同時に受け取った。
- ⑪ トヨは、母の手紙を読んでニンマリした。
- ⑫ この時、トヨとエリスはHな関係になっていた。
- ⑬ エリス、十二才で舞姫になった。
- ⑭ エリスは、ハックスレンデル座のナンバー1である。
- ⑮ 舞姫は、舞台の華やかさとは反対に、ワーキングブアで、売春する者もいた。
- ⑯ エリスが売春しなかったのは、おとなしい性格と強い意志を持った母のおかげである。
- ⑰ トヨはエリスに読書や言葉や文字を教える、親子の関係になった。
- ⑱ トヨは、クビになった原因がエリスにあることをエリスに話した。
- ⑲ エリスは、トヨのクビにショックを受け、すぐに母に伝えた。
- ⑳ エリスの母は、金の切れ目が縁の切れ目と思っていた。
- ㉑ この時、トヨとエリスは男と女の関係になった。
- ㉒ トヨはこの時初めてエリスに愛を感じた。
- ㉓ トヨは、自分のために泣いてくれるエリスの乱れた髪的美しさに、恍惚となり欲情を抑えられなかった。
- ㉔ トヨは、帰国してエリスと別れたことを後悔する生活をするか、ドイツに残って生活費も得られない生活するか、究極の選択を迫られた。
- ㉕ 東京にいる、山県大臣の秘書である親友の相沢鎌吉が、新聞社の配達員の仕事を紹介してくれた。
- ㉖ エリスが母親を説得して、トヨの下宿で同棲するようになった。
- ㉗ 二人は貧しく苦しい生活をしていた。
- ㉘ トヨは、喫茶店でドイツの新聞を読み、翻訳して日本の新聞社に記事を送った。
- ㉙ 昼過ぎには練習が終わったエリスが喫茶店により、二人で手をつないで帰った。
- ㉚ トヨは、政治や文学や美術の記事を書き、雑学には強くなった。
- ㉛ 大学に行くこともなくなり、学問ができなくなったことを強く後悔している。